

## ⑮ 実用新案公報(Y2)

昭62-41608

⑯ Int. Cl.<sup>4</sup>

識別記号

庁内整理番号

⑰ 公告 昭和62年(1987)10月24日

A 44 B 19/30

8508-3B

(全3頁)

⑱ 考案の名称 スライドフアスナー用自動停止装置付スライダ

⑲ 実 願 昭58-189342

⑳ 公 開 昭58-93209

㉑ 出 願 昭56(1981)12月21日

㉒ 昭58(1983)6月24日

㉓ 考 案 者 石 井 造 黒部市植木16

㉔ 考 案 者 織 田 深 滑川市上小泉2635-3

㉕ 出 願 人 吉田工業株式会社 東京都千代田区神田和泉町1番地

㉖ 代 理 人 弁理士 高 須 譲

審 査 官 大 矢 弘 昭

㉗ 参 考 文 献 実開 昭53-44503(JP, U) 特公 昭53-27653(JP, B2)

1

2

## ㉘ 実用新案登録請求の範囲

スライダ本体1の上面に、一対の肩部12、12、15、15と、該肩部12、12、15、15間に突出し上面が外側に向かつて下向き彎曲面をなす頭部11、14を有する前柱10と後柱13とが立設され、該両柱10、13の頭部11、14が嵌入する切欠40を両端に設けた板ばね4を、両柱10、13の肩部12、15上に係架し、その上面から、前記両柱の頭部11、14が嵌着する凹溝52、53を内面長手方向両端に形成したカバー5を被嵌し、板ばね4の両端突片41を、前記肩部12、15と前記カバー5の凹溝52、52両側にある厚肉部55、56の面で保持したことを特徴とするスライドフアスナー用自動停止装置付スライダ。

## 考案の詳細な説明

本考案はスライドフアスナー用自動停止装置付スライダの改良に関するものであり、その目的とするところは、自動停止装置の簡単な構造で安定な作動がなし得られ、かつ、これを包み固定するカバーの高さを可及的に低くするとともに、その外表面を緩かな曲面によつて構成することにより使用時における衣服などとの表面摩擦が少なく、かつ、メッキや塗装のはがれにくいスライダを提供することにある。

従来、スライドフアスナー用自動停止装置付スライダは極めて多種類型式のものが提案されて

いるが、特に多く用いられているのは、スライダ本体に上面に位置するばねによつて係止位置に突出していた係止爪を引手の引張りにより引上げてスライダを移動してフアスナーを開閉し、引手を放すことにより、ばねにより係止爪をスライダのスライドフアスナーチェーンの通路に突出せしめて、フアスナーチェーンの一方の務歯列間に係合せしめて、スライダが移動不能に係止されるようにする型式のものである。

従来、このような型式のスライドフアスナー用自動停止装置付スライダとして、実開昭53-44503号公報のものが知られている。このスライドフアスナー用自動停止装置付スライダは胴体上に突出した前後の起立壁の四隅部に支片を立設し、この支片の間に係止体を下方へ付勢する板バネを載置し、カバーで板バネを押えている。この構造であると、支片がカバーのコーナー部へ係合するものであるから必然的にカバーの隅角部が角ばってくる。そのためカバーに施した塗装やメッキがこの隅角部からはがれてきて意匠上スライダ全体が見苦しくなると共に、カバーが大型化してスライダ使用時の表面摩擦抵抗が大きくなる欠点がある。

又、特公昭53-27653号公報に開示される如く、胴体の前後に取付柱を突設し、取付柱の両側に段部を設け、この段部にスプリングに係止したスライドフアスナー用自動停止装置付スライダ

3

4

も知られている。しかし、このスライダーにおいてはカバー内へスプリングを安定して収めるためスプリングの両端を上方へ折曲し、この両端部をカバー内の四隅部へ当接する構造であるため、やはりカバーの隅角部が角ばつてくると共に、カバー全体の高さもスプリングを折曲した分だけ高くなってくる。

本考案は、上述の問題点を解決するために考案されたもので、スライダーの自動組立て工程において、各部材は安定して組合せが行われ、使用上スライダーの高さになるべく低く小形になると共に、洗濯や長年の使用においても塗装やメッキのはがれないスライドフアスナー用自動停止装置付スライダーを提供することを目的とする。

以下、図面に示す実施例によつて本考案を説明する。

第1図は本考案のスライダーを示す斜視図、第2図は分解して各部品関係を示す斜視図、第3図はスライダーの長手中心線での縦断面図であり、1はスライダー本体、2は引手、3は係止爪板、4は板ばね、5はカバーを示し、スライダー本体の上面には、前柱10、後柱13が対向して立設され、その間に中間突条16、両側案内突起17、段部付の爪孔18が配設され、前柱10は両側の肩部12、12と突出した頭部11とを有し、また後柱13も両側に肩部15、15と突出した頭部14とを有し、それぞれの頭部11、14と肩部12、15の上面は外側に向かって下向き彎曲面をなしている。

中間突条16の後面、両側案内突起17の前面はそれぞれの対向面間が上方に広がるように傾斜面をなしている。また段部付の爪孔18は、略両側案内突起17、17間の凹陥部の一侧に偏つて穿設され、凹陥部面に段部が形成されている。

引手2は取付け用の開孔20によりその先端に支軸21が形成されている。

係止爪板3は、比較的に大きな厚さ、巾を有し、後端突起32から一方に屈曲して下方に延びる爪31を有し、中間部は頂部35で屈曲して山形をなし、前端突起33と下方に分岐した係合突起34を有している。

板ばね4は両端に切欠40が設けられ、これにより、両端支片41、41がそれぞれ形成される。

カバー5は下面開放の薄鉢状をなし、両側下縁に切欠51が設けられ、第5図の底面図に示すようにその内面の上部壁面に、前記前柱の頭部11上部が嵌入する凹溝52、後柱の頭部14上部が嵌入する凹溝53がそれぞれ前後に穿設され、それぞれの凹溝52、53の両側面55、56は厚肉部54となつている。

前柱10、後柱13の基部両側面には、凹陥部25が設けられ、カバー5をスライダー本体1に被嵌し、横方向から加締め部26により固着するものである。

上記の各部品は第3図断面に示すように組立て固定されるものであるが、引手に力が加わらない状態では、係止爪板3は、その頂部35の上面が、前後柱の肩部12、15に係架された板ばね4の下面に僅かに接触し、前端突起33は前柱10の後面から離れ、係合突起34は前柱基部隅角面に接し、中間部の下面は中間突条16と両側案内突起17との間の平面上に位置する引手2の支軸21の上面に接し、また後端突起32の下面は段部付の爪孔18の後縁上面に接し、屈曲して下方に延びる爪31は爪孔18から下方に突出し、該位置にフアスナーチェーンが導入されていればその一方のストリンガーの務歯間に係合して、スライダー1の移動が停止されるものである。

第4図は第3図A-A線における断面図であり、前柱10の肩部12に、板ばね4の突片41が載架され、前柱10の頭部11の上部がカバー5の凹溝52に嵌入され、前柱10の両側基部の凹陥部25にカバー5の下縁が加締め部26に押圧固定されている。また、後柱13側も同様な構造となつているものである。

カバー5の凹溝52の両側面55は板ばね4の突片41の先端がほぼ接触する程度の彎曲面をなし、該部は厚肉部54を形成しているので、該部のカバー外面は長手方向、巾方向にわたつて大きな曲率半径の突曲面とすることができる。

第5図はカバー5の底面図で、第4図の前柱10部分と同様に、後柱13部分に対応するよう、それぞれ凹溝52、53が穿設されている。

第6図は、引手2に引張力が加わり、その支軸21が、一方の斜面を形成する両側案内突起17面に沿つて上昇し、これにしたがつて、係合爪板3が板ばね4を弾性的に変曲しつつ爪31が爪孔

5

6

18から上方に引上げられた状態を示す。

以上のように本考案は、スライダー本体の前後柱が板ばねの突片と係合する一対の肩部とその肩部間の頭部を備え、その頭部をカバーの凹溝に嵌入すると共にカバーの厚肉部と前後柱の肩部によつて板ばねを保持するものであるから、その組立時にはスライダー本体に対し順次引手、係合爪板、板ばね、カバーの組着けが極めて安定して行われ、しかも板ばねは、その長さのほとんど全部が弾性変形による弾力性を生じるため板ばね全長を有効に利用することができる。しかも前後柱の各肩部間に頭部を立設してあるためカバーの巾方向の曲率半径を大きく設定できると共に頭部の前後端も大きな曲率半径の下向き彎曲面となつてい

るのでカバーの長さ方向の曲率半径も大きく取ることができる。したがつてカバーは、その表面曲率半径を長さ方向、巾方向のいずれにも大きくすることができるので、使用時の表面摩擦抵抗が少なくなり、使用感が軽快になるとともに使用衣料自体の損傷が少なくなり、また、スライダーのカバー外面に施したメツキまたは塗装に対する傷害

が軽減されるので、永く美観を維持することができる。さらに柱の頭部はカバーの凹溝内に嵌入されているためスライダーの高さを可及的に低くすることができると共に板ばねに対して適度の初期荷重を与えることができるなど実用上の効果は著しいものである。

#### 図面の簡単な説明

図面は本考案の実施例を示すもので、第1図はスライダーの斜視図、第2図は分解して各部品関係を示す斜視図、第3図は長手中心線に沿う縦断面図、第4図は第3図A-A線における断面図、第5図はカバーの底面図、第6図は引手に引張力が加わつた場合の第3図と同様の縦断面図である。

1……スライダー本体、2……引手、3……係合爪板、4……板ばね、5……カバー、10……前柱、11、14……頭部、12、15……肩部、13……後柱、21……支軸、40……切欠、41……突片、52、53……凹溝、55、56……厚肉部。

